



平成 29 年度に向けて

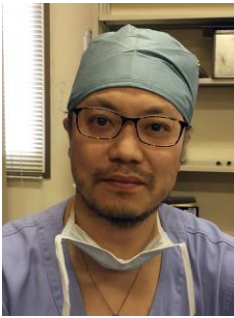
院長 柿木 滋夫



小樽にもようやく春らしい気配が感じられるこの頃となりました。平成 29 年度も約 40 名のフレッシュな入職者を迎えることができました。これもひとえに患者さん、関係御各位、当院職員のおかげと思っております。社会人としての第一歩を小樽病院から踏み出すこととなりますのでぜひ皆様にはご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

小樽病院の理念は、「患者様に寄り添い良質で心のかよった優しい医療を目指します」です。また、当院の果たすべき役割として「高度急性期から在宅復帰支援に至るまで患者様に寄り添いチーム医療を推進し、包括的医療を行う」としました。当院がこれからの激動する医療界において地域住民から信頼され必要とされる病院となるため、全職員が理念、果たすべき役割をしっかりと理解し、一致団結して診療にあたっていくことをお約束し挨拶いたします。

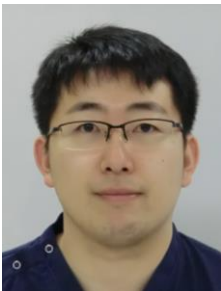
4月より着任しました医師の紹介



外科部長 横山 和之 (よこやま かずゆき)
出身地：中頓別町→江別市
北海道大学
腹腔鏡手術だけでなく消化器全般の手術をやって行きます。
どうぞご紹介ください。



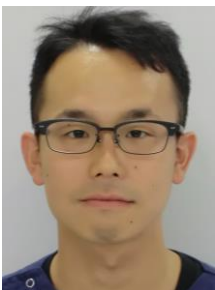
小児科医師 飯田 純哉 (いいた じゅんや)
小樽市
小樽潮陵高校→札幌医科大学
やっと地元に戻ってきました。頑張ります。



消化器科医師 外園 正光(そとこの まさみつ)
小樽市
杏林大学
一年ぶりに戻ってきました。地元小樽で患者さんのために頑張ります。よろしくをお願いします。



呼吸器科医師 猪狩 智生(いかり ともお)
岩見沢市
岩見沢東高校→旭川医科大学
小樽市及び後志地方の医療に貢献できる様、努力していきます。よろしく
お願いします

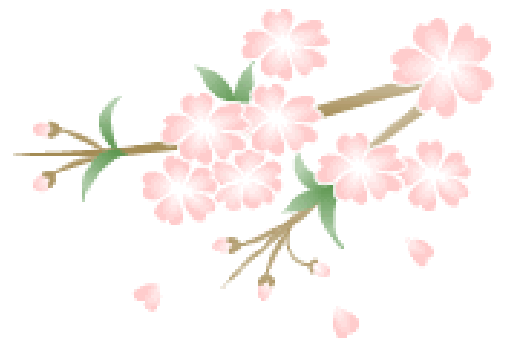


臨床研修医 関 航平(せき こうへい)
北海道紋別市
東京医科大学
一生懸命頑張ります。よろしくをお願いします。

1. 所属
2. 名前
3. 出身地
4. 出身校
5. 一言



臨床研修医 ユン ヨンフン(尹永勲)
韓国 光州
全南大学校
骨を埋める覚悟でがんばります。



小樽協会病院 健診のご案内

小樽協会病院ではインターネット予約のできる健診を実施しています。健康状態が気になる方は是非とも、健診を受けて自分の体は自分で守るようにしましょう。

企業健診等も実施しておりますのでお気軽にお問い合わせください。

小樽協会病院の健診はインターネットで予約できます。2016年7月～
もちろん、お電話・窓口でもご予約可能です。

循環器科医師による 心臓血管健診

「胸が痛くなる事がある」
「動悸がする」「息切れが強い」
「家族が心臓病で亡くなっている」
「胸の不快感があり心配だ」
そんな方はご相談ください。

※ 低線量CTによる； 肺がん健診

1日の平均喫煙本数 × 喫煙年数
= 600以上の方（55歳～74歳）。
又は、過去に喫煙歴がある方で、
禁煙から15年以内の方。
又は、過去に肺がんと診断されたことがない方が対象です。

気になる所だけ 健康チェック クイック健診

事前に情報を入力していただくので、
病院の待ち時間は少なく、
簡単で安心、早い健診です。
気になる所だけ手軽に健康状態を
チェックして頂けます。

贈る健康
もらう安心

健診ギフト券

当院では健診にご利用いただける、健診ギフト券（1,000円）をご用意しております。
家族や友人など大切な方へのプレゼントにぜひどうぞ

社会福祉法人 北海道社会事業協会 小樽病院
(略称 小樽協会病院)

〒047-8510 小樽市住ノ江1丁目6番15号
TEL: 0134-23-6234 FAX: 0134-33-7752

アクセス

J R : 函館本線 南小樽駅下車 徒歩5分
バス : J Rバス・中央バス本線利用
住吉神社前下車 徒歩3分
車 : 小樽市内国道5号線
奥沢十字街～入船十字街までの区間の
住吉歩道橋（信号併設）を海側へ

●内容は予告無く変更する場合がありますので、ご了承願います。

詳しくは当院のホームページへ
<http://www.otarukyokai.or.jp>



PFM (Patient Flow Management) の紹介

地域医療福祉連携室 室長補佐 福島洋子

医療政策の動向では、2025年モデルを「地域包括ケアシステム」と呼び、医療・介護・福祉を担う地域の施設・機関が協力して在宅医療の推進を目指すことを求められています。このような医療政策の中で、PFM事業として入院支援から退院支援、退院後の支援を一連のプロセスで実施する組織・仕組みを目指しました。

平成28年9月から小樽協会病院に関する実態調査を行い、その結果を基に平成29年1月にPFM事業計画を立案し、幹部会議にて小樽協会病院の事業として承認を得ました。そして、5月1日より1病棟・2診療科で試行、6月1日からの全院的な本稼働に向けて、患者支援センターの改装工事等が終了しました。

「PFM」はインターネットで検索すると多種多様な文献等が紹介されていますが、事業計画の作成にあたり、小樽協会病院におけるPFMについて、下記のように定義付けました。

PFM (Patient Flow Management) とは、入院患者の情報を入院前・入院時に把握し、問題解決に早期に着手する等を目的とする病院内の組織・仕組みとする。

PFMの組織を患者支援センター内に置く。

PFMの機能・業務を下記とする

①入院支援

- ・入院前・入院時における入院に関する問い合わせ等の入院支援
- ・入院前・入院時におけるPFM看護師による患者情報収集と各種リスクのアセスメント、必要に応じたMSWの介入の実施

②退院支援

- ・MSW・退院調整看護師による早期からの退院支援と地域連携の実施

PFMの事業目的を「患者サービスの向上と入退院に関する業務の効率化を図る」とし、目標を下記のように定め、新機能の導入することなく、現機能を標準化・中央化し、業務を再設計することにより事業導入を意図しました。

1) 入院・退院に関する患者サービスの向上を図る。

- (1)入院支援により、安心して入院できるよう不安・不満の軽減を図る。
- (2)退院支援により、退院に関する負担や困難を軽減する

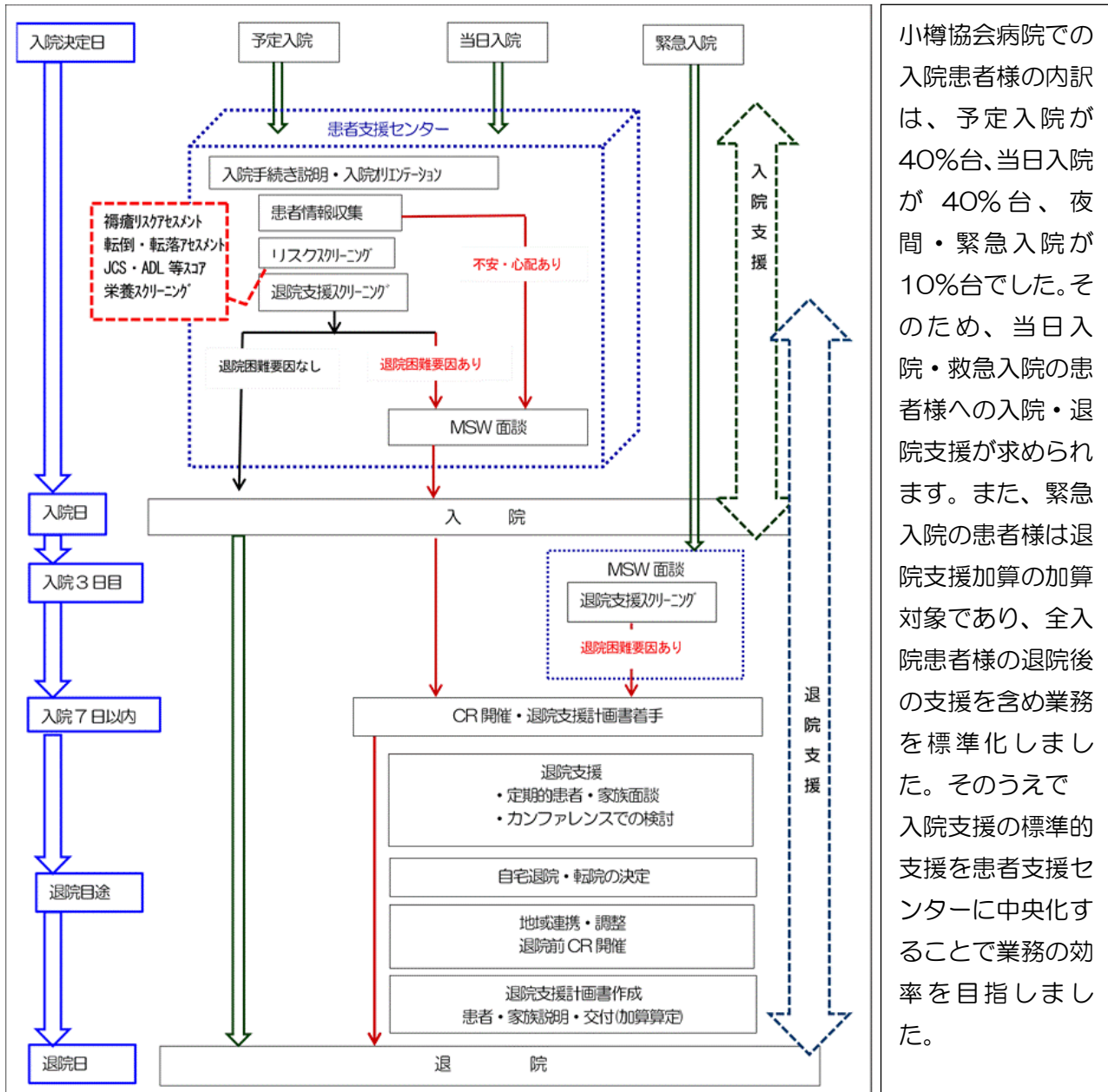
2) 入院から退院までの医師、外来・病棟の業務の効率化を図る

- (1)入院から退院までの業務を標準化・中央化し、医師・看護師の業務軽減を図る。
- (2)メディカルスタッフへの業務移行によりチーム医療を推進する。
- (3)入院から退院に関する事務作業を軽減する。

3) 病院増収を図る

- (1)退院支援加算1を取得する。
- (2)その他、入院・退院に関する加算を取得する。

具体的な展開として、PFM 業務フローを紹介します。



小樽協会病院での入院患者様の内訳は、予定入院が40%台、当日入院が40%台、夜間・緊急入院が10%台でした。そのため、当日入院・救急入院の患者様への入院・退院支援が求められます。また、緊急入院の患者様は退院支援加算の加算対象であり、全入院患者様の退院後の支援を含め業務を標準化しました。そのうえで入院支援の標準的支援を患者支援センターに中央化することで業務の効率を目指しました。

PFM 導入により、紹介から入院日までに3日以上間隔がある紹介入院患者様に対しては、事前に入院書類・入院案内、問診票などを送付させて頂き、事前にご準備をして頂くことを予定しております。また、入院時は、入院窓口で入院手続きをして頂き、入院の説明・情報収集等の対応をさせて頂く予定です。緊急入院の患者様に対して従来通りの入院支援となりますが、入院7日以内にMSWが面談などの対応を行い、早期に退院支援を開始いたします。

PFM 事業の目指していることは患者様が安心して入院し退院できる体制です。そして「多様な患者様の状況に適切に対応する」がキーワードです。関係医療機関・福祉施設の皆さまのご理解・ご協力を得て、小樽協会病院として現有多様な連携システムを含めて連携体制を検討し、患者様が安心して入院し退院できる環境整備をしたいと考えます。

小樽協会病院 形成外科

「リンパ浮腫・マイクロ再 建外科外来」新設のご案内

2017年4月より、リンパ浮腫をはじめとして、マイクロサージャリーを駆使した再建外科手術のための専門外来を新設いたします。

各月4回、火曜または土曜日。 **完全予約制**

* 担当医または看護師からの紹介状／情報提供があれば、地域医療福祉連携室でご予約可能です。

1. 四肢リンパ浮腫に対する外科的治療

- ✓ 「リンパ管静脈吻合術」, 「血管柄付きリンパ節弁移植術」, 「象皮症形成術」, の実施が可能です。
- ✓ 乳がん, 婦人科がん等の治療に伴った上肢/下肢「続発性リンパ浮腫」
- ✓ 内科・循環器科精査で原因不明とされた下肢「原発性リンパ浮腫」
- ✓ ※ 術後, かかりつけのリンパ浮腫外来通院やマッサージ等を再開できます。

2. 乳房(胸壁)再建術

- ✓ 乳がん全摘術に対する「自家組織移植」による「一次一次的再建術」「二次一次的再建術」の実施が可能です。
- ✓ 部分切除後の拘縮変形, 乳輪乳頭欠損
- ✓ 放射線照射後の皮膚潰瘍・脆弱瘢痕

3. 指・爪の再建術

- ✓ 部分足趾移植術, 動脈皮弁移植術, 知覚皮弁移植術等の実施が可能です。
- ✓ 後天性(外傷, 腫瘍切除等)または先天性の手指(特に母指)欠損・短縮・低形成, 爪欠損・かぎ爪変形等
- ✓ 外傷による指腹部の知覚脱失, 血流障害・指尖部萎縮など

4. 顔面神経麻痺の後遺症

- ✓ 遊離または有茎筋弁移植, 筋膜移植等の実施が可能です。
- ✓ 閉瞼障害・兔眼症
- ✓ 眉毛・眼瞼下垂
- ✓ 口唇の偏位・下垂など

当科では全身麻酔手術は勿論のこと, 約85%の手術は末梢神経ブロックや局所麻酔下を実施しており, 身体的負担を軽減するよう努めております。ご不明な点はどうぞお気軽にご相談ください。また, 当院ホームページも合わせてご参照いただけますと幸いです

<http://www.otarukyokai.or.jp>

第27回地域連携シンポジウムを終えて

平成29年3月2日に小樽協会病院講堂にて、第27回地域連携シンポジウムを開催いたしました。市内近郊の開業医の先生方をはじめ、慢性期病院の先生方、老健施設の施設長、多数の先生のご出席を賜りました。また今回は新たな試みとして地域の介護支援専門員の方々にもご出席賜りました。今回は田辺三菱製薬株式会社との共催にて行われ、準備段階から御協力いただきました。



シンポジウムはⅠ部、Ⅱ部に分かれ、Ⅰ部は当院循環器科の長井医師より、「循環器科からみたSGLT2阻害薬への期待」のテーマで、これまでの治療のデータを踏まえながらSGLT2阻害薬への期待する内容を発表いたしました。



Ⅱ部では、南小樽病院の大川博樹院長を座長にお迎えし、会の進行をお願いいたしました。当院小児科の辰巳先生、リハビリ科の山崎先生にご講演いただきました。

最初に小児科の辰巳先生から「身長は語る：低身長を主訴に来院した小児の検討より」というテーマで、低身長など発達が順調でない場合、虐待されているケースもあり、低身長という主訴の奥に子供の成長を阻んでいる大きな問題が隠れていることもあるため、医療者は気をつけて診なければならないと話されていました。



リハビリ科の山崎先生からは「当院における地域包括ケア病棟の動向」というテーマで、当院の地域包括ケア病棟について、スライドを交えながらわかりやすく講演いただきました。リハビリだけでなく、サブ・アキュートやレスパイトでも対応可能なため、お困りの症例がありましたらご相談いただければ幸いです。

今回参加いただきましたケアマネージャーの方々からも質問があり、充実したシンポジウムになりました。座長の労をとっていただきました大川先生をはじめ、お越しいただきました各医療機関、老健施設の先生方、各居宅支援事業所のケアマネージャーの方々にお礼を申し上げます。次回もプログラムが出来次第、ご案内させていただきますので、どうぞご参加くださりますようお願いいたします。



がん患者サロン「しらかば会」開催のお知らせ

7月から毎月第1土曜日の10時半から、がん患者サロン「しらかば会」を始めました。

「しらかば会」とは、患者さんやご家族の方々が、同じ病気の方と出会い、がんとうまくつきあい、自分らしい生活を過ごせるようなヒントを得られる場を目指して開設しました。しらかば会は、それぞれの語りを大切に作るささやかなサポートの集いです。小樽協会病院のがんサロンでは、交流の場のほかに、療養に役立てていただけるよう、勉強会を開催します。

会の名前「しらかば」は小樽市の樹から名づけた物です。（皆さんはしらかばが小樽市の樹だということをご存知でしたか？）

当院のがん患者サロン「しらかば会」も、小樽の皆さんに身近で、そっと寄り添うことの出来る会にしたいと思っております。

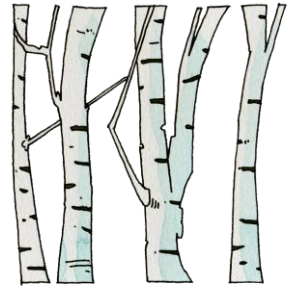
★第1回がん患者サロン「しらかば会」★

日時：7月1日 10：30～

場所：当院 講堂

対象：当院にがんで通院もしくは入院している患者様もしくはご家族様

講師：竹藪副院長



第6回ふれあい健康講座

『小児のスキンケア アトピー性皮膚炎の考え方』を開催いたしました



3月24日、2階講堂において講師に札幌徳洲会病院アレルギー科の続木先生をお迎えして講演会『小児のスキンケア アトピー性皮膚炎の考え方』を開催しました。

若いお母さま方を中心に、お子さんや旦那さんと一緒の方もいて30名ほどにご参加をいただくことが出来ました。アトピーは決して減少していないことや、放置していたらいくつになっても

治らないこと、アトピー性皮膚炎になると他のアレルギーも出やすくなること、アトピー性皮膚炎のスキンケアの基本は

①荒れた肌を鎮める治療 ②体の清潔を保つこと ③保湿

の3つが大切なことなど続木先生のお話はとても分かり易かったです。講演の後にはいくつかの質問が寄せられ、続木先生がひとつひとつ丁寧に答えしていました。

次回は6月17日に乳がんに関する講演を行う予定ですので皆様のご来場をお待ちしております。

編集後記

長い冬が終わり桜の咲く季節になりました。新しい職員も増え、病院の中の雰囲気もだいぶ変わりました。これからも小樽協会病院の情報を皆様にお届けできるようにがんばっていきたいと思います。(渡辺)

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.53

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：平成29年5月

発行人：柿木 滋夫

編集委員長：渡辺 直輝